

今週の為替相場見通し(2018年8月13日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.51 ~ 111.53	110.93	109.00 ~ 111.80
ユーロ	(ドル)		1.1388 ~ 1.1628	1.1408	1.1200 ~ 1.1600
(1ユーロ=)	(円)		126.02 ~ 129.45	126.52	124.00 ~ 128.00
英ポンド	(ドル)		1.2723 ~ 1.3005	1.2774	1.2600 ~ 1.2850
(1英ポンド=)	(円)	*	140.94 ~ 144.75	141.41	140.00 ~ 143.00
豪ドル	(ドル)		0.7280 ~ 0.7453	0.7293	0.7100 ~ 0.7500
(1豪ドル=)	(円)	*	80.62 ~ 82.80	80.95	79.00 ~ 83.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 109.00 ~ 111.80 円

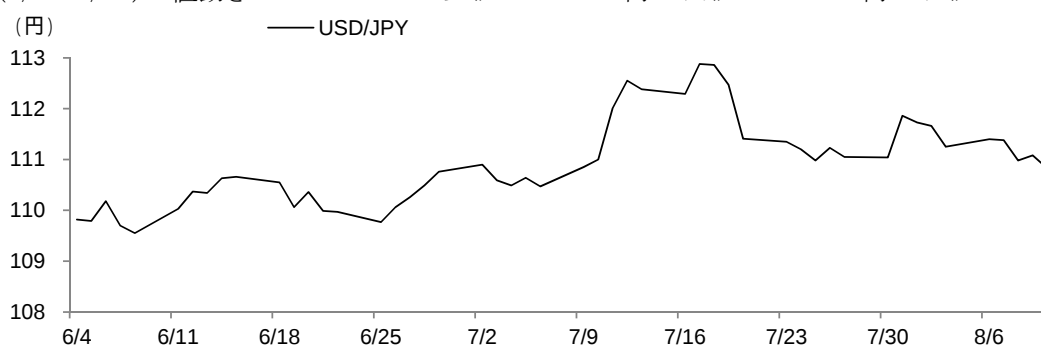
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は小幅なレンジ内で推移。週初6日に111円台前半でオープンしたドル/円は、フォックス英国国際貿易相が「英国のハードブレグジット(強硬離脱)の可能性が高まっている」と発言したことを受けて英ポンドが売られ、また独6月製造業受注指数が約一年ぶりの低水準となりユーロ売りが強まるなど対欧州通貨を中心にドルが買われる展開に週高値となる111.53円をつけた。しかし、米10年国債利回りが約2週間ぶりに2.93%を割り込んだことから111円台前半まで下落。7日は中国上海株をはじめアジア株が総じて堅調に推移する中でドル売りが強まり111円を下回る場面も見られたが、ユーロ/円が急伸するとドル/円は111円台半ばまで連れ高となった。8日は「中国が米国製品160億ドル規模に対し報復関税を8月23日に発動」との報を背景に110円台後半まで下落。9日は一時110.71円まで下落したが、トランプ米政権によるトルコやロシアへの制裁が嫌気される中で新興国通貨が軒並み下落したほか、対ユーロでのドル買いにサポートされ111円台前半まで反発。翌10日、米7月CPIコア指数が市場予想を上回ったことからドル/円は上昇する場面も見られたが、米国・トルコの更なる関係悪化が懸念され、リスクオフ地合いの中、週安値となる110.51円をつけた。その後は、トランプ米大統領の弁護士であるセクロー氏が「米国人牧師の拘束問題が解決に近づいている可能性がある」と発言したことから反発し、110.93円で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想。先週は、株価が比較的落ち着いた値動きを見せる中でも、為替についてはリスクオフ的にドル買い、円買いが進み、クロス円が下落する展開となった。ドル/円については、対他通貨でのドル買い地合いとクロス円の売りに挟まれ、足元111円を挟んで小幅なレンジ推移となっている。然しながら、7月日銀金融政策決定会合を経て112円付近が重いままで、テクニカルにも一目均衡表の基準線や転換線といったポイントを割り込んで推移しており、上値の重さが意識される状況。海外勢も既に円高方向を見ており、現状レベルでの売り意欲が確認されている。今週は、夏休みシーズンが本格化し取引も細ると考えられるが、米中通商問題やトルコをはじめとする新興国懸念が燃える状況下、クロス円の上値が重い地合いも続いており、ドル/円も引き続き上値重く推移しよう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/6~8/10)の値動き: 安値 110.51 円 高値 111.53 円 終値 110.93 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 1.1200 ~ 1.1600 124.00 ~ 128.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は週後半に急落する展開。週初6日に対ドルで1.15台半ば、対円では128円台半ばでオープン。独6月製造業受注が予想を下回ると米国と主要国との貿易摩擦による悪影響がドイツ経済に及んだとの懸念が強まり1.15台前半まで下落した。しかし、この水準では値ごろ感から買い意欲がみられたほか、米金利低下も相俟って1.15台後半まで反発した。7日は中国人民元相場が安定したことや独金利上昇を背景に対ドルで1.16台まで続伸。8日も前日の流れを引き継ぐ格好で対ドル・対円で一時週高値となる1.1628・129.45円をつけたが、イングランド銀行(中央銀行、BOE)のマカファーティー委員による「通商問題において英国がより良好な状況にあると考えることは難しい」との発言が材料視され英ポンドが下落するとユーロも連れ安になり、対ドルで1.15台後半まで値を下げた。その後はドル売り優勢地合いとなったことから1.16台前半まで反発。9日は新興国通貨が軒並み下落する中、リスク回避姿勢の強まりに対円が大きく下落し128円台前半まで下落すると、対ドルでも1.15台前半まで下落。10日も「ECBがユーロ圏金融機関のトルコへのエクスポージャーを懸念している」との報道等を背景にユーロ売りの流れが継続し対ドル・対円で一時週安値となる1.1388・126.02円まで下落。対ドルで1.14台前半、対円では126円台半ばで越週した。

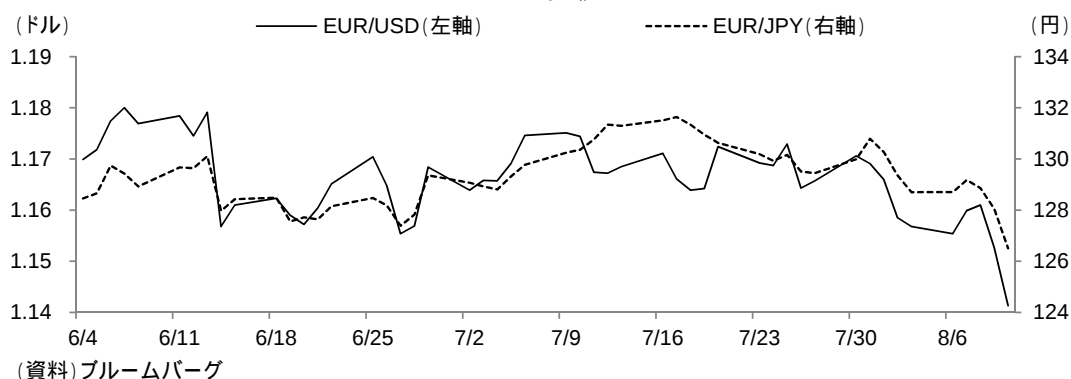
今週のユーロ相場は上値の重い推移を予想。先週大きくユーロが値を下げる要因の一つとなったのがトルコ市場の混乱。トランプ大統領がトルコに対するアルミ・鉄鋼関税引き上げを表明したことをきっかけにトルコリラが急速に売り込まれ10日にトルコリラは過去最安値を更新。混乱を収めるべく、トルコのアルバイラク財務相より新経済計画が公表されているものの、その内容は具体性に乏しく、米国との関係悪化懸念やエルドアン大統領の政策に対する警戒感が強く意識される中ではトルコリラは一段の下落も想定される。先週一部で報じられた通り、トルコ市場へのエクスポージャーを抱えるユーロ圏銀行の財務状況リスクが高まっている状況下、ユーロを積極的に買う動きは手控えられるやすいだろう。金融政策に目を向けてみると、先月のECB政策理事会は早期利上げ観測を高める結果となったとは言えず、その後発表されている経済指標についても良好な結果が目立っているわけではないことも勘案すると金融政策を手がかりとしたユーロ買いも入りづらい状況と言えそうだ。先週の下げが急速であっただけに巻き戻しの動きも想定はされるものの、基本的にはポジション調整の範囲内にとどまり上値の重い推移をメインシナリオとして予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/6~8/10)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1388 高値 1.1628 終値 1.1408

(対円) 安値 126.02 高値 129.45 終値 126.52



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2600 ~ 1.2850 140.00 ~ 143.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、下落。対ドルで昨年6月来13か月半ぶりの、対円で昨年8月来1年弱ぶりの、対ユーロで昨年9月来11か月ぶりの安値をそれぞれ更新した。ポンド下落の主因は、英のEU離脱交渉の先行きを巡る悲観の一段の広がりと考えられた。3日のカーニー英中銀総裁発言（「合意なしの離脱の可能性は居心地の悪い程高い」）に続き、5日には、フォックス英国国際貿易相が、現地紙に対して、「合意なしの離脱の可能性は現時点で60%」と発言。同発言を受け、週明け6日の欧州市場は、ポンド全面安で始まった。更に、7日、英中銀金融政策委員会のマカフェティ委員が、「欧州系銀行の銀行員の大量流出で、ロンドンの家賃は引き下げられる可能性がある」などと述べた。同発言を受けては、対ユーロでのポンド下落が先行したように見えたが、翌8日には対ドル、対円でのポンド安も追随することとなった。10日発表された一連の英経済指標は、英4～6月期GDP暫定値が概ね市場予想通りだった他、英6月貿易収支、同鉱工業生産、同製造業生産などは若干強めの数字（貿易収支は赤字が少な目）だったものの、ポンドが材料視した様子はほとんど読み取れなかった。同日のポンド続落（対ドル、対円）は、対ユーロでのポンド反発が示した通り、ドル高、円高の巻き添えの色彩が濃かった。ドル高は、それぞれ米経済制裁によるトルコ・リラ、ロシア・ルーブルの急落が先鞭をつけ、リスク回避の文脈で円高も招いた。更に、ユーロ/ドルが、底値の目途と見られていた1.15を割り込んだことで、大きく水準を切り下げ、ポンド/ドルの連れ安を誘った。

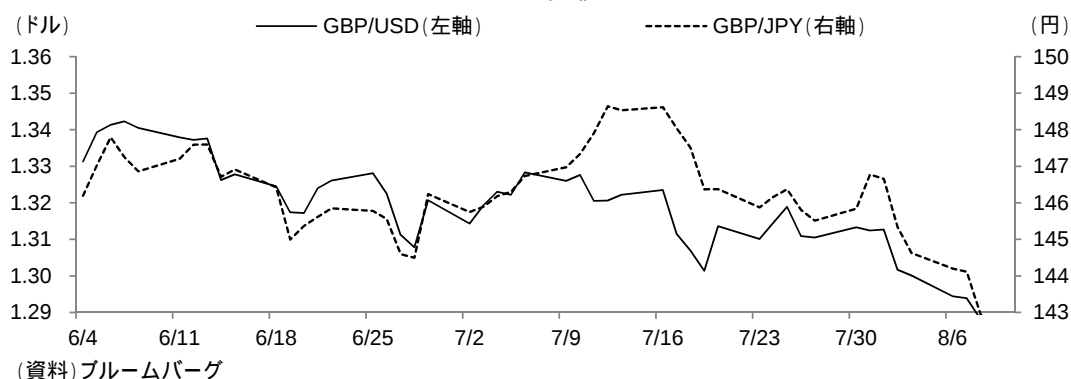
今週の英ポンド相場は、軟調推移継続を予想。英政治は夏休み中で、目先、EU離脱を巡る悲観が緩和されるような進展は見込み難い。英中銀金融政策に関しても、カーニー総裁は任期内（来年6月まで）の追加利上げの可能性は否定しなかったものの、当面の追加利上げには慎重な姿勢を示しており（「政策（運営）は、走るのではなく、歩くことが必要」）、近い将来、追加利上げ観測がポンド買い要因と読まれる可能性は低い。ただし、9日以降観察された対ユーロでの底打ち、反発が示す通り、10日に掛けてのポンド続落はドル高、円高の色彩が濃く、ポンドがもう一段明確に水準を切り下げていく可能性は低いものと見込む。仮に、ユーロ/ポンドの頭打ちを所与のものとするなら、ポンド固有の新規売り材料がないまま、ポンドが下落を続けるには、ユーロの続落に引っ張られる必要があるはずだが、ユーロがこのまま続落する可能性も高くはないと見込む。ユーロ/ドルは、1.15を割り込んだことで、一定の（ユーロ売り）達成感が出たと考えられる他、10日のユーロ安には、「トルコに対する貸出の多さ」を問題視する声もあったようだが、こじつけが過ぎる。確かに、米銀や、邦銀と比べて、欧州銀のトルコ向け与信比率は高いかも知れないが、大手金融機関の業績や欧州の金融システム全般に影響するほどの残高があるとは到底考えられないだろう。経済指標では、14日（火）に英4～6月失業率、同平均賃金、15日（水）に英7月CPI、16日（金）に英7月小売売上高などの英主要経済指標の発表が相次ぐものの、市場の関心が高いとは言えず、余程予想外の数字でも見ない限り、ポンドの反応は限定的となろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週（8/6～8/10）の値動き:

(対ドル) 安値 1.2723 高値 1.3005 終値 1.2774

(対円) 安値 140.94 高値 144.75 終値 141.41



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 岡本 明生

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7500 79.00 ~ 83.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

週初6日、シドニーはバンクホリデー祝日の中、豪ドルは0.7400を挟んだ商いが続き、海外市場では米中貿易摩擦を注視しながらNY市場では0.73台後半へ小緩んで引けた。7日の豪ドルは0.7385近辺でオープン、RBA理事会は予想通り政策金利を1.50%に据え置き、声明文でも新規材料は見られず、豪ドルへの影響は限定的で0.73台後半での小動きが続いた。シドニー夕刻、下落基調が懸念されていた人民元が上昇しそれを材料視する中、欧州市場入りに豪ドルは0.74台前半へ戻し高値0.7440まで上昇し0.7415近辺で引けた。8日の豪ドルは0.7415近辺でオープン、RBAのロウ総裁による講演では「最善の方策はしばらく過去最低水準である政策金利1.50%に維持」と述べ新規材料はないことから0.74台前半での推移が続いたが、豪ドル/円は週高値82.80円をつけた。海外市場では一時0.7383まで小緩んだが見慣れた0.7430近辺へ戻して引けた。9日の豪ドルは0.7435近辺でオープンした後、一時高値0.7453まで上昇したが維持できず0.74台前半へ小緩んだ。海外市場では貿易摩擦の懸念や英国のEU離脱の不透明感から、リスク通貨の豪ドルは0.73台後半へ下げ0.7375近辺引け。10日は0.737近辺で方向感なく推移も、ユーロが急落する展開につれ豪ドルもレジスタンスとなっていた0.7350を割り込み週安値0.7280まで下落。海外時間に入ってからリスク回避的な動き変わらず0.73近辺での推移が続き、豪ドル/円も週安値80.61円まで下落。結局対ドルで0.7302、対円では80.89円レベルで越週した。

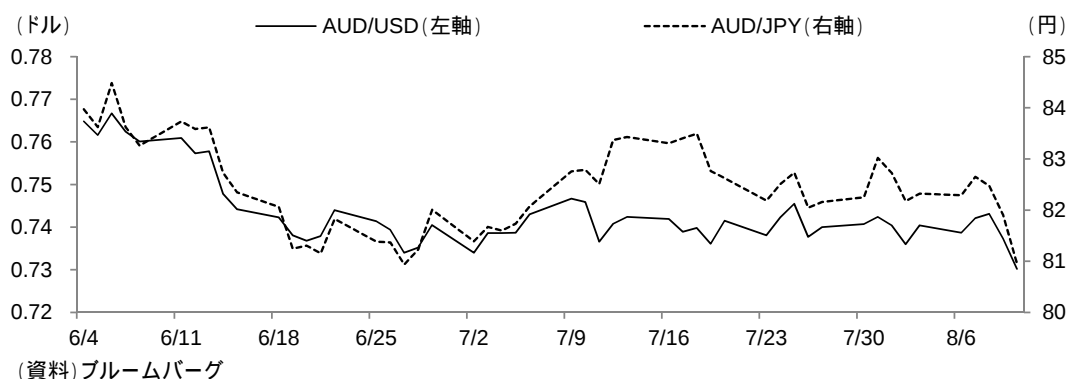
今週の豪ドル相場は下値を探る展開を予想する。RBAは金融政策の現状維持を決定、四半期報告では2018年GDP見通しを0.25%ポイント引き上げて+3.25%としたものの、短期的には利上げする強い論拠は見当たらないとコメントしているように政策スタンスを変更する材料はなく、当面は米中貿易関係やトルコショックに左右されやすいだろう。今週は中国で主要経済指標の発表を控えているが、先週の中国7月貿易統計では輸入が前年比+27.3%と大幅に上昇し、明確な米関税導入の影響は見取れなかったものの、今週も同様のスタンスで指標の内容を見極めたいところ。夏枯れ相場の中で方向感が出ない可能性も十分あるが、リスク回避的な動き中心で豪ドルが買われる展開は予想しづらく、目先は0.72割れも視野に入れておきたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/6~8/10)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7280 高値 0.7453 終値 0.7293

(対円) 安値 80.62 高値 82.80 終値 80.95



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。